

市民の応援ソチに届け!!

湊・鈴木選手に声援を送ろう

ソチ五輪7日に開幕

今月7日に開幕する第22回オリンピック冬季競技大会（2014・ソチ）ノルディック複合の代表に、北秋田市出身の湊祐介選手（28歳）
東京美装・鷹巣農林高校―日本大学出身Ⅱが、1月14日、選出されました。北秋田市からは、すでに出場が



▲ノルディック複合の日本代表に決まった湊祐介選手



▲バイアスロンの日本代表に決まった鈴木美由子選手

決まっているバイアスロン競技の鈴木美由子選手（25歳）
自衛隊冬戦教・米内沢高校出身Ⅱとともに、前回のバンクーバー大会に続いて2度目の五輪出場となります。

湊選手は、阿仁中学校で複合競技を始め、高校ではインターハイで優勝するなど活躍。09年世界選手権で団体優勝、個人ノーマルヒル6位入賞。また、前回のバンクーバー大会では、個人ラージヒルに出場し26位になっています。代表に決まり、湊選手は「自分のやるべきことに集中し、日本チームのために全力を尽くす」と話しました。

鈴木選手は、合川中学校と米内沢高校時代には距離競技の選手として全国大会で活躍し、自衛隊に入りバイアスロン競技を始めました。前回のバンクーバー大会では、3種目に出場し、スプリントで44位と健闘しました。五輪出場選手による共同会見で鈴木選手は「五輪での目標は10位以内。今の自分の力を最大限発揮し、チャンスを生かしたい」と力強く述べています。

市民の皆さん、湊・鈴木両選手の活躍を期待して、ソチへ届くような熱い応援をしましょう。

■ノルディック複合競技とは

ジャンプと距離を組み合わせた競技で、瞬発力と持久力の両方が要求されます。五輪では個人戦のノーマルヒルとラージヒル、団体ラージヒルが行われます。ジャンプは全種目とも1回のみで、距離（いずれもフリー走法）は個人戦が10キロ、団体は20キロを4人でリレーします。

■バイアスロン競技とは

スキーマススタート（一斉スタート）、リレーが行われます。射撃は、立射と伏射があり、種目により射撃の回数や順番、1発外すごに課せられるペナルティーが異なります。



▲市役所前に設置された五輪出場を祝う看板

競技日程（日本時間）

■ノルディック複合

2月12日▽個人ノーマルヒル
ジャンプ 〈18:30~〉
クロスカントリー 〈21:30~〉
18日▽個人ラージヒル
ジャンプ 〈18:30~〉
クロスカントリー 〈21:00~〉
20日▽団体
ジャンプ 〈17:00~〉
クロスカントリー 〈20:00~〉

■バイアスロン(女子)

2月9日▽スプリント 〈23:30~〉
11日▽パシュート 〈24:00~〉
14日▽個人 〈23:00~〉
17日▽マススタート 〈24:00~〉
21日▽リレー 〈23:30~〉

※いずれも日本時間です。テレビ放映の時間は各自お確かめください。
※バイアスロンのパシュートとマススタートは前競技の上位選手が出場します。

青少年国際交流研修団

中国での貴重な体験を未来へ

青少年国際交流研修団

●交流の輪を若い世代に

青少年国際交流研修団（団長・虻川副市長）が1月6日から11日までの6日間の日程で、中国の上海市、蘇州市、溧陽市を訪問し、異文化交流や体験を通して中国への理解を深めました。

今回の訪問は、旧秋田県立営農大で中国からの留学生を受け入れていたことをきっかけに続いている交流の輪を、市の若い世代にも引き継ぎ、両国の子どもたちが相互に交流できる環境を整えるために実施したものです。

研修団員は、一般公募により選ばれた、合川中学校2年の齋藤北斗さん、鷹巣中学校2年の成田千佳さん、大館国際情報学院高校2年の工藤南さん、秋田北鷹高校2年の藤田優花さんと伊藤諒平さんの5人です。

●元留学生からの熱烈的歓迎

上海では、元留学生の皆さんが歓迎会を開催。上海市嘉定区農業委員会の朱維強さんからは、中国への訪問を歓迎するとともに「未来へ向けた青少年交流をこれからも続けたい」などのあいさつがありました。

●日本語を学ぶ学生らと交流

中国では、蘇州市の蘇州農業職業技術学院（日本の大学に相当）と、溧陽市の光華高級中学（日本の高校

に相当）を訪問し、日本語を学ぶ学生や生徒らと交流を深めました。

蘇州農業職業技術学院では、学生のほか元留学生で副学院長の郭志海さんと副教授の江炳坤さんを交えて懇談し、お互いの住んでいる所や学校生活の様子などを紹介しました。中には日系企業への就職や日本への留学を希望する学生もいて、熱心に質問をしていました。団員らは、日本の文化を知ってもらおうと折り紙を教えたり、よさこいソーランを披露したりして盛り上げました。

光華高級中学では、生徒と交流するとともに、生徒の家庭にホームステイをして、中国の一般家庭の生活を体験しました。

また、今回の訪問では、世界文化遺産に指定されている庭園や陵墓、由緒ある建造物などを見学し、中国の歴史や文化に触れました。



▲古都・蘇州にある虎丘を訪ねて、中国の歴史に触れました

●交流の大切さを実感

団員は、14日に市役所を訪れ、津谷市長へ帰国を報告しました。多くの出会いと貴重な体験を重ねた団員は「二ニュースなどを聞き、中国には良いイメージがなかったが、実際に行ってみて印象が変わった」「みんな友好的で熱心に歓迎してくれた」「悪いイメージは政治的なもので、人と人との交流は大切にするべきだ」などと感想を述べました。



▲今回のために練習を重ねた「よさこいソーラン」を披露し、とても盛り上がりました